

長野五輪の施設を活用し、フレキシブルなマルチワークを創出
(平成29年度:ふるさとテレワーク推進事業)

事業概要



- ▶ 長野オリンピックのレガシーとしてノルウェーから譲り受けた施設を活用し、コワーキングスペースを中心としたテレワーク拠点とする。都市部の企業から移住もしくは長期派遣により業務を持ち込むことで、関係人口の創出に加え、地域で求められている観光業以外の安定した通年雇用を創出するとともに、ITを含めたマルチワーク(多業)により観光振興に寄与する人材を育成する。
- ▶ オープンな交流スペースを提供することで、多様なスキル・経験を有した人材のネットワークを形成し、地域の好循環を生み出す。

住所	長野県白馬村大字北城3476番地
アクセス	JR白馬駅から徒歩約30分、八方バスターミナルから徒歩約10分
利用対象者	都市部から移住・長期派遣した社員、フリーランス、二地域居住者、地域住民等
収容人数	オフィス10名、コワーキングスペース22名、ミーティングルーム4名
可能業務	Webメディア・イベント等企画運営、EC・ふるさと納税返礼業務等

[URL] <https://hmv.jp/>

白馬ノルウェービレッジ



事業詳細

事業名称	国際山岳観光資源×テレワークによる「しごとづくり・ひとづくりプロジェクト」		
事業主体	白馬村		
支援省庁	総務省	支援事業名	ふるさとテレワーク推進事業(H29)
関係団体	【白馬村ふるさとテレワークコンソーシアム】 白馬村、長野県、ヤフー株式会社、SBドライブ株式会社		

実績・効果

◆実施類型・人数 ()内は移住人数

類型A	類型B	類型C	類型D	備考
1名	6名	15名	10名	R3.3.31時点

◆進出企業

しくみ(株)

類型A: 地方のオフィスに、都市部の企業が社員を派遣し、本社機能の一部をテレワークで行う

類型B: 子育てや親の介護を理由に地方への移住を希望する社員が、テレワークで勤務を継続する

類型C: クラウドソーシング等を利用し、個人事業主として、又は起業により、都市部の仕事をテレワークで受注する

類型D: 都市部の企業が、テレワークで働く人材を、新規に地方で採用する

分析・今後の計画・目標

- ・インバウンド旅行者や長期滞在者などのリゾートテレワークや、村内で自営業を行う人たちの利用が多く、そういった利用者
のニーズに合わせた運用方法の検討をし、カフェの開設などを進めた。
- ・令和3年度については、個室を2~3室設置し、個人が長期的に集中して使えるような提供を考えている。